



青葉匂う

四日市市立港中学校通信

令和元年度 第21号

1月10日(金)発行

明けましておめでとうございます

本年もよろしくお願いたします



年末年始は、比較的暖かい日が多く、穏やかな気持ちで過ごせたのではないのでしょうか。さて、皆さんは正月をどのように過ごしましたか。私は、今年も家族で近くの神社に年越しで初詣に行きました。まずは、お賽銭をあげ、昨年のお礼と新年のお願いをしました。その後、かがり火にあたり暖をとりながら、お神酒をいただき、顔見知りの方々と新年の挨拶を交わし、様々な話に花を咲かせました。

生徒の皆さんも外出先で知人や友人と会い、新年の挨拶を交わし、本年の抱負を語りあったのではないのでしょうか。3年生は、神社を含め様々な場所で、思いを込めて合格祈願をした人もいることでしょう。本年も、生徒とご家族の皆さん、地域の皆さんにとりまして幸の多い1年になることを心よりお祈りします。1年間よろしくお願いたします。

3年生は入試本番です！ 夜型から朝型へチェンジ



1月15日(水)から始まる3年生の卒業テストとともに、16日(木)向陽台高等学校古川学園キャンパスの推薦入学試験を皮切りに、県内外の私立高校及び高等専門学校の入試が始まります。

これまで学習してきた実力を入試本番で十二分に発揮してほしいと思います。

そのためにも、普段の学校生活や家庭生活において、衣類や頭髪を整え、言葉遣いや態度にも気を配りましょう。また、風邪が流行する季節ですから、十分に栄養と睡眠をとり、健康管理に努めましょう。さらに、本番の時間を想定し、勉強を含めた活動時間を、夜型から朝型に切り変えましょう。

時間を有効に活用して、3月10日(月)の県立高校後期入学試験まで計画的に勉強しましょう。

LINEから講師を招いてモラル研修会を開催



1月8日(水)3学期始業式後に、本校体育館にて、ネットモラル研修会を行いました。本年度は、本校でも利用している生徒の多いLINEを選び、LINE株式会社からオフィシャルインストラクターの田中さんを講師に招聘しました。

講演内容は、相手の顔の見えないネット上での正しいコミュニケーションの在り方や価値観がそれぞれ違うことから起こるトラブルについて学びました。

ネットを使うことが悪いわけではなく、使い方を間違わないために学ぶことが大切だと考えています。

特に昨年は、小学生・中学生・高校生の女子がネット上で知り合った男性と直接会い、車で連れ去られたり、男性の家に監禁されたりする事件が何度も発生しましたので、心配でなりません。なぜなら、三重県内や四日市市内でも起こっていることだからです。

加えて、スマホの写真機能がとても性能がよくなったことで、新たなトラブルも増えています。例えば、アイドルの女性が載せた写真の目に写った風景から、自宅が特定されたことがあったので覚えている人もいることでしょう。スマホで撮った写真は、何時、どこで撮ったかを記録しています。ということは、ネット上で載せた場合は、不特定多数の人に知らせていることとなります。これはとても怖いことです。世の中は善人ばかりではないということも知ってもらいたいと思っています。

全力を尽くす姿が感動を呼ぶ！

毎年、正月はスポーツが花盛りです。様々な競技の放映にくぎづけになってしまいます。様々な競技の全国大会を見ては、知らない選手ばかりなのですが、いつも三重県代表を応援してしまうのは私だけでしょうか？

今年も、高校生のサッカーやラグビー、バスケットボール、バレーボール、大学生の箱根大学駅伝やラグビー、社会人の実業団駅伝やサッカー天皇杯、アメリカンフットボール、などを見ました。それぞれにドラマがあり、テレビの前で拍手をしたり、歓声をあげたりしました。

皆さんはどのスポーツを楽しみましたか？どのスポーツにおいても、チームの数と選手の数だけドラマがあり、感動があります。スポーツ観戦の良さは、その一端に触れることができることだと考えています。試合や大会に出場している選手だけではなく、控えの選手、スタンドや沿道で応援している人たちが、すべてが一体となり、そのスポーツ空間を作っています。

また、観戦する観客もスポーツ空間を作る1つの大切な要素です。選手たちのひとつひとつのプレーに歓声が沸き、その歓声はまた、選手の次のプレーのエネルギーとなるのです。スポーツは、勝者と敗者は生まれますが、勝負して敗れたチームや選手から大きな感動を得ることも多いのです。勝利をめざし、無我夢中にプレーする姿は美しく、見る人に感動を与えます。生徒の皆さんも、スポーツに、学習に目標を定めて無我夢中に打ち込んでみてください。

生徒の活躍	おめでとう！	日時	種目	結果
吹奏楽アンサンブルコンテスト北地区大会		12/26	金管7重奏 混成8重奏	銀賞 銀賞

参考に チームワークの7段階

何年も前の日経ビジネスですが、組織の風土改革を専門とする(株)スコラ・コンサルタントが考えるチームワークの7段階というものが紹介されていたので紹介します。

- レベル1「認識する」 お互いの存在は認識しているが会話はあまりしない関係
- レベル2「会話する」 日常的な会話ができる関係
- レベル3「理解する」 お互いの性格や考え方を理解し合っている関係
- レベル4「共有する」 価値観や知識を共有し合う関係
- レベル5「相談する」 信頼をベースに、課題に対する知恵を出し合う関係
- レベル6「協力する」 目的実現のため、利害を超えて協力し合う関係
- レベル7「価値を生む」 個人間・組織内の相互作用で新たな価値を創造する関係

レベル1～3は「ベーシックな関係性」とされています。コミュニケーションや信頼関係など、人と人とのつながりを中心とした関係性と言えると思います。従来、チームワークというところを強調し、メンバー間の同調やなかよし集団を目指してしまいがちになってしまいますが、チームとしての成果をあげるにはレベル4～7に掲げる「プロフェッショナルな関係性」を高めていく必要があるとのこと。

スコラ・コンサルタントのプロセスデザイナーの塩見康史さんは、コラム「葛藤と創造の中で躍動するチームワーク」の中で、次のように書いています。

「方針・戦略を具現化するチームの力とは、トップが示す抽象的な方針や戦略について、チームでその意味や目的、実現のための方法などが徹底的に話し合われ、また、具体的なアクションを伴ったトライアルの試行錯誤を早いスピードで回していくことです。このようなチームワークを実現するためには、多様性(ダイバーシティ)を活用することが欠かせません。(中略)多様性を持ったメンバー同士で、認識をすり合わせ、より大所高所から考えられるように視野を広げ、互いの知恵やアイデアなどをぶつけ合い、切磋琢磨することで、新しい価値は生み出されていきます。そのためには、お互いを知り合い、違いを認め合うことを促進していく対話の機会を日常的につくる必要があります。」

生徒の皆さんの部活動でも、保護者の方々の職場でもリーダーとなった人は、新たなチームで今年一年、どのようにチームワークを高めていこうかと頭を悩ませることがありませんか。学校運営においても同様です。